



茶

防寒対策は
早めに…!



農業経営支援課
福手 裕三

秋整枝によつて茶樹の摘採面に出現した芽や成葉では、休むことなく活動が続けられ、貯蔵養分として樹体に蓄積されます。その茶樹養分の蓄積によつて茶樹は耐寒性を増し、越冬に備えています。

《防寒対策》

気温の低下に伴い、茶樹の耐寒性は徐々に強まります。1～2月はマイナス10～12℃くらいまで耐えられるようになりますが、茶樹の耐寒性を越えた低温や寒風に遭遇すると寒害を受けます。

寒害を受けやすい茶園

①標高が高い茶園 ②冬の季節風を強く受ける茶園 ③冷たい空気が停滞する窪地・低地などです。寒害の防止対策として、敷き草の施用が有効です。敷き草は、土壌の乾燥を防ぎ、地温を保ちます。しかし、水はけの悪い所での施用は逆に地温を下げ、寒害を受けや

すくなる場合があるので注意しましょう。

また、秋肥を遅くすると裂しよう型凍害の発生率が高まるとの研究結果もあるため、冷気が停滞しやすい所や低温になりやすい立地条件の茶園では、秋肥を早めに施用しましょう。

《病害虫防除》

10月～12月にかけて発生が見られるのは、カンザワハダニです。カンザワハダニは、平均気温9～10℃になると休眠期に入るので、それ以前の平均気温11～12℃になる11月上旬が防除適期となります。休眠期に入ったダニは、鮮やかな朱色をしていて、増殖期は暗赤色をしています。暗赤色時が防除時期となります。発生は、ほ場ごとに差があるので、各地域の防除情報を参考に防除を行ってください。

スズ病

今年も、チャトゲコナジラミの発生が多いほ場が確認されています。チャトゲコナラジ

ラミの成虫の寿命は3日程度と短く、単体または少数では茶園に大した被害をもたらすことはありませんが、防除を怠り多数の成虫の発生を許した場合は、排泄物によつて葉に入病の被害をもたらします。茶園全体に発生すると、寒冷遮をかけたような状態が続き、光合成ができなくなり、来年の一番茶に大きな減収を招きます。発生が未確認の場合でも、侵入予防を心がけるために、カンザワハダニの防除を兼ねて「マシン油乳剤」を散布しましょう。

灰色かび病

夏場の乾燥を受けたほ場は、花芽分化しやすく着花が多くなります。開花期に降雨が多い年は、灰色かび病の発生が心配されます。発病の心配がある茶園については、開花盛期～落弁期に薬剤散布を行ってください。

防除薬剤：フロンサイドSC 2000倍、ベアドール水和剤 500倍など